



○ 労山基金運営委員会

ココヘリと労山基金の関係性
について

6月30日付けでjROはココヘリを運営するAuthentic社に子会社化されたのに伴い、労山会員に対してどう変わったのか照会するメールが幾つか寄せられた。それへの回答は、労山会員がココヘリに加入している場合は、自動的にjROのサービスを受けられるように変わったことである。また、「労山基金10口の場合とココヘリ加入+労山基金5口ではどちらが有利か?」という質問もきた。この回答は「救助捜索の倍率」が大きなポイントになる。ココヘリ加入+労山基金5口(5000円×1000倍)だから救助捜索費用は1050万円。一方、労山基金10口加入の場合は(継続10年で10000円×500倍)だから500万円になるので、救助捜索費用面の限度額は半分である。しかし、事故に入通院は付きもので、加齢により入通院日数が長引く傾向にある。トータルで見れば労山基金10口加入がお得です

よと回答した。

とにかく、もう一度労山基金とココヘリの目的を思いだしてほしい。労山基金は山仲間への山岳遭難共済、ココヘリは行方不明者を素早く見つけるための制度である。しかもココヘリは発信機(充電された正常な発信状態)を持つていることが必要で、携行していないとサービスの対象外となる。この違いを理解してほしい。

(白井邦徳/労山基金運営委員長)

○ 組織部

全登研集会の成功めざし

総力挙げて一直線!!!

組織部員は全登研実行委員を兼ねており、部会の討議内容は今のところ全登研の内容が大部分である。ただいま集会の成功めざし部員一同、他の実行委員、全国理事ともども総力を挙げて取り組んでいる真つ最中である。

講演者にお招きしている伊藤圭氏(労山創設者・伊藤正一氏の御子息で三俣山荘支配人)の演題に合わせ、4つの分科会が設定されたことは登山時報2022年9月

号で詳細に取り上げてもらい、すでに報告した通りである。

着々と準備は進んでおり、レポートも寄せられている。集会参加者には10月半ばにレポート集を討議資料として送付する予定である。

従来通りでない新しい集会の創造を試み、これからの登山の在り方、取り組み方を皆で考え、討議できるように運営も工夫してきた。また、オプシオンで直接体験できる技術交流も取り入れた。

この集会の中で、登山界の中の労山の価値、楽しさ、素晴らしさ、文化が浮き出てくるものと確信している。

参加者の期待を裏切らない集会となるよう、成功に向け一直線に頑張っている。地方連盟のより一層の参加・支援をお願いしたい。

(組織部長/久保典子)

○ 山筋ゴーゴー体操推進委員会

皆さんよく頑張りました。

ありがとう!

9月11日(日)、愛知県連で「山

筋ゴーパー体操講習会イン東三河」と題し、山筋ゴーパー体操講習会を開催した。愛知県連にはサポーターが一人おられるので、その方に大いに活躍して頂ける講習会になるだろうと楽しみにしていたが、当日はあいにく体調不良で参加が叶わず、残念であった。

主催者側との打ち合わせ時、今回の参加者は「東三河山ぽ会」のメンバーが中心だと伺ったので、事前準備としてこの会のHPを見すると、精力的に本当に多くの山行をされていることを知り、会員の皆さんの期待を裏切らない講習会となるように頑張つて取り組んだ。

講習会は大いに盛り上がり、参加者人数も23名と丁度良く、大好評のうち終了した。

後々、講習会運営にご尽力いただいた愛知県連理事・河村恵子氏から「大変満足した講習会で、機会があればもう一度、との声が参加者から上がった」という嬉しい報告も頂戴した。

前回の福井、今回の愛知と、講習会後の交流会はとても有意義で

あった。この後は、11月に宮城・岩手、12月に埼玉で講習会を実施する予定だ。さらに、広島県連で1月にONE・デイ・サポーター養成講座の開催が検討されている。3名の小さな委員会だが、全国中に「山筋列車」を走らせたいと大きな希望を抱いて頑張っている。

(山筋ゴーパー体操推進委員会委員長
／久保典子)

○遭難対策部

今年7件目の死亡事故発生

8月3日から9月7日までに届いた事故一報は37件37名。

転倒が13名(無雪期10名、沢登り3名)。転落が3名(無雪期1名、登攀1名、室内ジム1名)。滑落が10名(無雪期5名、沢登り4名、登攀1名)。体勢が5名(無雪期4名、沢登り1名)。落石が1名(沢登り1名)。病気が1名(沢登り1名)。その他3名。登山形態では、無雪期23名、登攀2名、沢登り11名、人工壁1名。骨折15名、損傷3名、打撲6名、捻挫3名、関節炎3名、脱臼3名、その他4名。

男性16名、女性21名。下山中の事故は、13名。

所属連盟は、兵庫が7名。道央・埼玉・東京・福岡が各4名。千葉・神奈川が各3名。茨城・岡山が各2名。石川・愛知・広島・宮崎が各1名。

年齢は、30代1名、40代6名、50代10名、60代11名、70代9名。

今年7件目の死亡事故の一報が入った。南アルプス尾白川の沢登りでの滑落事故だった。事故者は、三段35mの滝で二段滝口から落ち一段目の滝壺まで流された。検証では、心筋梗塞の疑いがあり、その後溺死したとの報告だった。今後の会の検証を待ちたい。

今回は、沢登りの事故が10件発生し、滑落が4件、沢での転倒や体勢を崩しての事故が5件、落石事故が1件発生している。沢での死亡事故が、前月・今月と連続している。慎重な行動で転落・滑落を避けて頂きたい。

(石川昌／全国遭難対策部長)

※事故一報の一覧表は次ページを参照してください。